

## 21世紀の日本のかたち（103）

### 道州制-地方からの国づくり（その6） — 北陸州 —



戸沼幸市

<（一財）日本開発構想研究所 代表理事>

#### 1. 北陸圏の地政学-地理地形と歴史

北陸圏（富山県、石川県、福井県）は日本列島、日本海国土軸の中央部において、日本の人間居住の中核をなす地域です。北陸圏はこの位置にあって、古来、中国大陸、ロシア、南北朝鮮などと日本海を介して様々な交流を重ねてきました。

私はこの春（5月中旬）、秋（10月初旬）と、改めて海と山のクニ、北陸圏を訪れ、この定住圏の伝統と最近の動向に触れ、見聞する機会を持ちました。春、5月には2泊3日、東京駅から北陸新幹線（平成27年3月14日、長野～金沢開業）を利用して、富山、金沢へ、そして、数年後に北陸新幹線の延伸が予定されている福井、敦賀に足を延ばして小さな旅を楽しみました。帰路は米原から名古屋経由の東海道新幹線を利用して帰京するという、北陸・中部圏、一筆書きの小旅行といったものでした。

この時、北陸圏の降り立った都市の駅では、ベテランのタクシー（ドライバーは皆地元の地理・歴史に詳しい）を利用しましたが、富山、金沢、福井、敦賀市中と日本海沿岸の港町を観光案内のパンフレットを片手にあちこちと見学して歩きました。北陸は立山連峰などの山々を背景に緑が増し、春から夏に向か

う快適な季節で、旅の印象は、喧噪な東京などと違って落ち着いたひとかたまりの定住圏、安定した居住領域であることが改めて実感されたことでした。

#### 地理・地形

北陸圏域（富山県、石川県、福井県-総面積12,622km<sup>2</sup>）を切り取って上空から眺めると、龍のかたちにも見えます。

図1 北陸圏の領域



資料：戸沼作成

日本海に突き出た能登半島を頭に、新潟県の佐渡ヶ島に向けて口を開け、富山湾に巻き付く沿岸部を前足に、そして石川県側、能登半島の背面から福井県に至って、若狭湾沿いの一皮が尻尾のように見えます。そしてこの

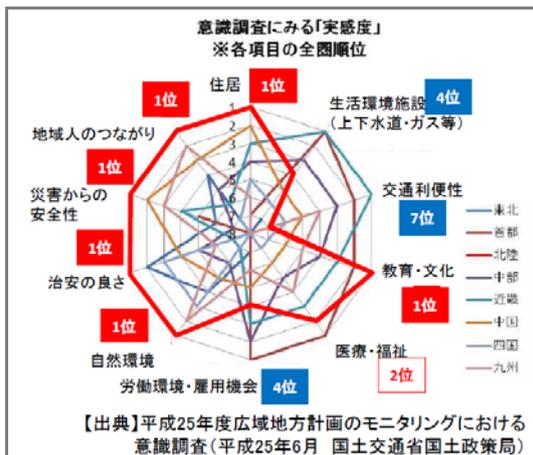
若狭湾沿岸域は京都や琵琶湖に近く、独自の領域であることが気づかされます。

この地域の日本海沿岸域の海岸線をたどると、大小いくつもの窪みがあり、これが古くからの海岸集落―津々浦々であることに気づかされます。富山湾や若狭湾はこれらをひとくくりにしているといったところです。

北陸圏の内陸側は、概ね山地に接し、特に富山県は日本有数の山岳地帯、飛騨山脈、標高3,000m級の立山連峰を領域に含んでおります。石川県、福井県も背後に大きく白山高地を囲い込んでおり、独特な海と山の国です。

北陸圏地域には急峻な山地から発する河川―黒部川、常願寺川、神通川、庄川、小矢部川（富山県）、手取川、梯川（石川県）、九頭竜川（福井県）などが日本海に向かって注ぎ、その下流部には豊かな扇状地状の沖積平野が形成されております。この地理、地形において北陸は冬の季節、降雪時に豪雪地帯ともなります。

図2 住みやすさについての高い評価



【出典】平成25年度広域地方計画のモニタリングにおける意識調査(平成25年6月 国土交通省国土政策局)  
出典:『新たな「北陸圏広域地方計画」【説明資料】』  
北陸圏広域地方計画推進室、平成28年3月

## 歴史―私の歴史散歩

北陸圏（富山県、石川県、福井県）は、ほぼ古代の地方行政区画、五畿七道の一つ「北

陸道」の地域に入ります。また、古代、若狭の東側の高地、木ノ芽山「越」を起点に、越前（福井県）、越中（富山県）、越後（新潟県）などの領域は「越の国」と呼ばれ、共通の生活文化圏であったことが知られております。

国の広域地方計画では新潟県は東北圏域に入っています。京都に近い若狭は独自の文化を持ち、越の国とやや異なった趣をもっています。

北陸圏は古代において高句麗や渤海との交易があり、中世、近世においても京に近い日本海の領域として、外浦（港）、内浦（港）が造られ、人間定住の拠点となって推移しております。江戸時代の日本列島の西廻り航路、北前船の寄港地は町となって栄え、今も各所にその姿が残っております。

北陸圏内の歴史を訪ねながら散策すると、各所に中世、近世の居住空間―城と城下町の遺構が残り、これに続いて近現代都市が一定の社会資本を形成し、農業社会に重ねて伝統産業から先端的産業をしつらえて形成されてきた様子がよくわかります。

## 富山市、富山県

北陸新幹線で富山駅に降り、駅前からおしゃれなセントラム（市内電車環状線）に乗って市内を一巡しました。

富山市は戦災に遇って区画整理によって再建された都市です。背面に立山連峰、前面に富山湾があります。江戸時代、加賀藩の支配下にある富山藩の城下町（10万石）で、富山城址、越中富山の薬売り（配置家庭薬）問屋、池田屋安兵衛商店と、途中下車しながら中心市街地を一巡しました。

かつての商店街は店々が大きなビルに入って全体として閑散とし、富山市が標榜するコンパクトシティが正念場を迎えているといった印象を受けました。地元のタクシーで伏木富山港に立ち寄り、北前船の廻船問屋で国指定重要文化財「森家」を見学しましたが、廻船問屋群のあるまち並みにつづく伏木富山港にはロシア船が入って、日本の中古車を積んでおりました。伏木富山港の背後には、富山高岡新産業都市に指定された重化学工業ゾーンがあります。

**写真1 富山駅に直結するセントラム  
(市内環状線・富山地方鉄道富山市内軌道線)**



(撮影戸沼)

富山県の観光地として五箇山の合掌造り集落、黒部ダムなどは外国人には大人気の様子です。いくつもの資料から富山県の経済にとって、伝統産業と近代工業の集積が大きな都市のストックであることが理解されます。また、射水平野、富山平野を持つ富山県は、全国一の水田率（経営耕地面積に占める田の割合）を誇り、そして森林面積は県土の約7割にもなります。

**秋の富山**

春5月の北陸への旅に続いて、10月、日本有数の山岳県、富山の秋の山々に触れたいと

思い立ち、東京発の北陸新幹線に飛び乗りました。列車は秋の連休中であり、観光客でおいに混み合っていました。私は学生時代、登山家の師匠、吉阪隆正先生が依頼された山小屋の設計監理の仕事を与えられ、槍や穂高、立山に登りましたが、関わった涸沢カールの中心部「涸沢ヒュッテ」や立山弥陀ヶ原の富山県営「立山荘」は今も健在です。

秋、紅葉の飛騨高地の山々は、まことに美しい日本の風景です。今回は、平安時代修験道行者の手によって開かれた、立山連峰の山裾にある立山杉の巨木に息づく神仏混淆のあしくら芦峯寺雄山神社に参詣しました。明治政府は山々、山岳のカミを神仏分離としましたが、古来、日本の宗教は神仏一体のものに違いありません。芦峯寺雄山神社は護符とともに薬草、熊の胆（くまのい）などを全国に配り、これが富山の薬売りの始まりだということです。千年の杉林に息づいている山岳の宗教空間は、今も人の心を安らかにしてくれます。

続いて真言密宗の大本山、大岩山日石寺を訪ねました。この山岳宗教空間は大日堂を中心に10を超える小振りな寺々が山盛りとなって独特な景観を形成しておりました。ここに立山の麓より湧き出ている六基の滝があり、これに打られるとは仏様との御縁を結ぶことであり、人間の六根（眼、耳、鼻、舌、身、意の根）を清浄にし、明王の大慈悲の清水を受け、六欲煩悩を断ずることだということです。この日、老若男女、参詣の人々でこの山は賑わっておりました。

これら山岳の神（仏）などが息づいている立山町、上市町は、立山、剣岳、鹿島槍ヶ岳などを含む雄大な景観を持った特異な自治体です。

芦峯寺に隣接する場所に富山県立山博物館がありますが、ここには立山の自然や山岳信仰について工夫された展示がなされており、数々の資料とともに、いわば「立山学」を入門的に学習できる場所となっております。

写真2 芦峯寺雄山神社（1）



(撮影戸沼)

写真3 芦峯寺雄山神社（2）



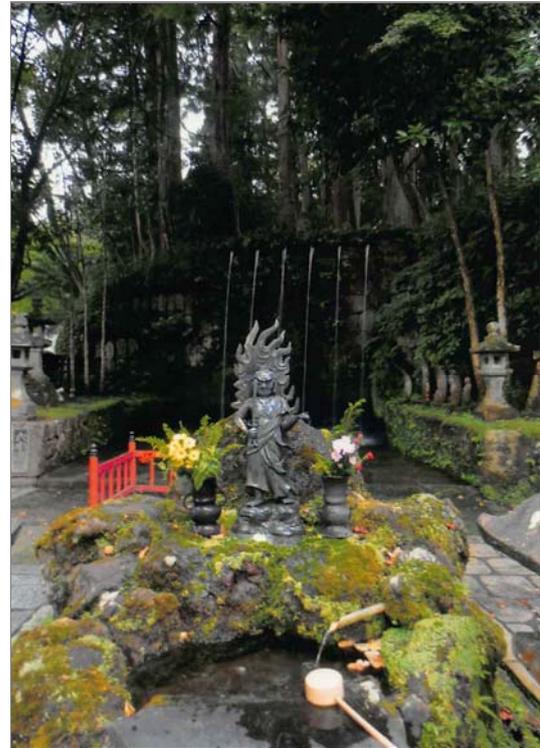
(撮影戸沼)

写真4 大岩山日石寺 本堂



(撮影戸沼)

写真5 大岩山日石寺 六本滝



(撮影戸沼)

#### 金沢市、石川県

北陸新幹線の開通以来、北陸地方随一の都市、金沢は内外からの観光客も多く、私が訪れた5月中旬も大いに賑わっておりました。大きなガラスドームのJR金沢駅東口から観光タクシーを利用して加賀百万石の城下町を一巡しました。城跡、武家地、寺院群、町人町と景観が丁寧に保存されていると感じましたが、これは富山市、福井市と異なって、戦災を免れたこと、市当局や建築、都市計画・設計の関係者諸氏の努力によるものに違いありません。

金沢城の外郭域に属していた兼六園—江戸時代の築山・林泉・廻遊式庭園にも大勢の観光客が訪れておりました。加賀、越中、能登3国を領した前田氏の加賀百万石の城下町は、優れた田園を持ち、近畿からの技術を引き入

れて殖産興業に力を尽くしたことが、九谷焼、金沢漆器、金沢箔、加賀友禅も創り出したことに現れております。

写真6 金沢・兼六園



(撮影戸沼)

金沢の港町、金石・大野にも足を延ばしてみました。「海の百万石」といわれた日本海の廻船問屋、銭屋五兵衛屋敷跡（記念館）も見応えがありました。今回は訪れませんでした。かつて珠洲などのまちづくりに関与したことがあり、日本海に突き出した能登半島から見た、夕日の沈む日本海が今も鮮やかに思い出されます。

石川県は明治以前、大まかには加賀国、能登国によって構成されておりましたが、いくつかの経過を辿りながら、明治維新の廃藩置県によって現在の形になりました。この時、旧制第四高等学校（現金沢大学）が金沢に置かれたことも、明治政府の特筆される制度設計です。産業としては、まず農業があり、手取川流域の金沢平野などは、全国有数の早場米の産地として知られております。漁業も長い海岸線を持つ外海岸と内海岸で漁業の仕方が異なるのですが、ともに盛んです。そして金沢市をベースに、石川県に観光業の比重を格段と高めております。

写真7 金沢の景観保全



(撮影戸沼)

### 福井市、福井県

福井市は戦災（昭和20年）、福井地震（昭和23年）によって壊滅的な打撃を受けました。これが市民の不屈の力によって、不死鳥の様に今日の姿にまで復興した都市です。

写真8 恐竜王国・福井駅前



(撮影戸沼)

そして近々、北陸新幹線の延伸を期待するまちづくりが進められております。これについて旧知の福井大学大学院、野嶋慎二教授が「福井駅・城址周辺地区まちづくりガイドライン（平成28年3月 福井市）」をもとに説明してくれました。

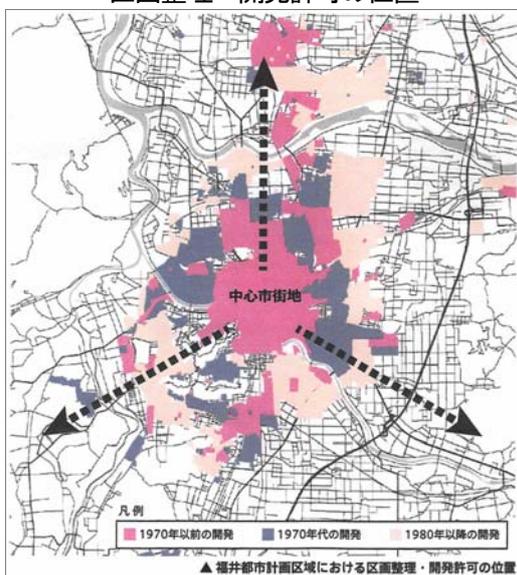
「現在の市の中心部は室町時代の頃、北ノ庄と呼ばれており、まちづくりは柴田勝家の北ノ庄築城が始まりといわれております」「防

衛のため、四重五重に堀を持つ壮大な軍事都市として作られていました。

武家屋敷、菜園が堀に沿って作られ、水と緑の回廊のある雄大な都市空間が形成されていました」

野嶋案では水と緑の回廊と城下町の歴史を感じる街の再建、再編を企画しているということで、成果が期待されます。

図3 福井都市計画区域における  
区画整理・開発許可の位置



出典:『The Fukui Design Guideline』発行・調査機関  
福井大学大学院工学研究科建築建設工学専攻  
野嶋研究室、総括野嶋慎二(福井大学大学院工学研究科教授)

福井大学には旧知の都市計画専門の川上洋司教授が「福井圏域構成の歴史(財)地域環境研究所、2005年」などをベースに、この圏域の未来論を聞かせてくれました。また、中世の貴重な歴史遺産、一乗谷朝倉氏遺跡をも案内してくれました。

中世戦国時代を伝える遺構、町並みが福井の川筋に沿うように文化庁によって復元されつつあり、興味深いものでした。

写真9 特別史跡 福井県立一乗谷朝倉氏遺跡



出典:『特別史跡 一乗谷朝倉氏遺跡の案内』福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館、2015

写真10 福井県立一乗谷朝倉氏遺跡  
資料館・町屋



出典:『特別史跡 一乗谷朝倉氏遺跡の案内』福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館、2015

道元禅師の開いた(1244年)曹洞宗の大本山永平寺については、福井の森に築かれた宗教空間として以前に訪れた時の印象が今も強く残っております。

### 敦賀市、福井県

天然の良港をもつ敦賀は、直近の背面に琵琶湖をもち、古代より畿内から北陸に至る門戸でした。また日本海を介して朝鮮方面、中国との交流(渤海使の接見、宋船の来航など)も記録されております。近世では有力な北前

船の寄港地であり、豪商たちを輩出した記念館が残っております。

敦賀港では、杉原千畝の「命のビザ」を手に入れたユダヤ人避難民約6,000人がヨーロッパからシベリア鉄道に乗って逃れ（1940～41）、ナホトカから船に乗って敦賀港に至り、これを迎え入れた経過を記録した記念館を訪ねました。改めて大陸と日本を海路でつなぐ、日本海国土軸・日本海沿岸域の世界性を感じたことでした。

### 若狭湾の原発

若狭湾には原子力発電所がずらりと並んでいます。高速増殖炉もんじゅの廃炉は決まりましたが、高浜原発4号機が私の福井滞在中（5月17日）、さらに（6月6日）高浜原発3号機を、九電・川内1・2号機、四電・伊方3号機に続いて再稼働しました。

写真11 高速増殖炉もんじゅ



(撮影戸沼)

福井県若狭湾沿岸一帯は、1966年日本原子力発電所に始まり、原発の基地となり、原発銀座とも呼ばれ、現在も15基（運転終了した「ふげん」を含む）が並んでおります。将来的には福井県も原発依存度を下げる方向を打ち出しておりますが、どのようになるのか。

福井県は古代、越前、若狭の2国からなり、畿内と北陸を結ぶ位置にありました。中世、一乗谷朝倉氏の居城を残して、江戸時代、若狭全域を小浜藩が治め、越前地域には福井藩の小藩が並立しておりました。明治維新の廃藩置県では、敦賀県、足羽県などに区分されていた時期がありましたが、現在の県の領域はこれを一つにまとめたこととなります。

産業、農業では、米作依存度が高く、水産業では沿岸沖合漁業が中心です。工業では伝統的に織物が紆余曲折はありますが、王国といわれるほど盛んです。鯖江のメガネ枠製造も有名です。重工業誘致をめざして福井港建設、臨海工業域の埋め立てをしましたが、これの利用については課題を残しています。福井県のエネルギー産業、原発依存度の高い構造を、産業としてどうするかも大きな課題です。

私の北陸新幹線（予定地も含めて）の、春、秋の小さな旅、立山町、上市町、富山、金沢、福井、敦賀市などは、それぞれ个性的ながらも共通の風土の中、連続して北陸の豊かな暮らしの生活形を築いていることを再確認することになりました。

## 2. 21世紀の北陸ビジョンー北陸圏広域地方計画

日本海国土軸の中核的広域生活圏である、北陸（富山、石川、福井県）を対象とした「北陸広域地方計画」が、2050年を展望し、今後10年の施策として、平成28年3月29日、国土交通省により決定、発表されました。キャッチコピーは次の如しです。

「日本海・太平洋2面活用型国土の“要”北陸の暮らしやすさに磨きをかけ、三大都市

圏と連携する日本海側の対流拠点“北陸圏”の形成へ」

以下は北陸圏広域地方計画の項目のレビューです。

**図4 地理的優位性**  
三大都市圏に近接し環日本海諸国を始めとする東アジアに対するアクセスの優位性



出典:『新たな「北陸圏広域地方計画」【説明資料】』  
北陸圏広域地方計画推進室、平成28年3月

## 2-1. 北陸圏の現状と課題

### 現状

北陸圏は人口約302万人、面積12,600km<sup>2</sup>、圏内総生産12兆円。多様な個性を併せ持つ確固たるまとまりのある圏域を構成している。

- ①地域コミュニティの強さや経済的ゆとりで子育てしやすく女性の社会参加がしやすい優れた生活環境
- ②多様で個性ある都市の利便性と農山漁村のゆとりを身近に享受できる優れた居住環境
- ③3,000m級の山岳から日本海に至る地形変化の中、風水害や土砂災害、豪雪等の厳しさを有する反面、多様な生態系と健全な水環境系を育む豊かな自然環境
- ④伝統産業から先端産業まで日本海側有数の特徴ある世界レベルの工業集積等、多様な産業の集積
- ⑤三大都市圏に近接し環日本海諸国を始めとする東アジアに対するアクセスの優位性
- ⑥自然、歴史、農林水産業、食文化、ものづ

くり等豊富な資源を活かした雪国ならではの生活の知恵が複合した独自で多様性のある文化

### 課題

大都市圏への人口流出、人口減少、少子高齢化。インフラの老朽化の進行、災害対応。ICT（情報通信技術）の進展への対応。地域特性・歴史文化をいかした地域の創生への対応、など。

さらに項目を立てて記述すると、

- ①子育てしながら共働きできるライフスタイルの維持・向上
- ②少子化の進展及び若い世代の人口流出に歯止めをかける雇用環境の充実
- ③自然災害など厳しい自然環境の中でも安全・安心が快適な生活レベルの維持・向上
- ・豊かな自然資産の活用、環境保全に対する人々の意識の向上
- ・エネルギー開発等の更なる推進 北陸圏に存在する豊かな再生可能エネルギーを最大限活用したエネルギー開発に取り組む。原子力発電はできるだけ少なくする。
- ④連続する都市群と半島や中山間地の共生
- ⑤地理的優位性と北陸ブランドを活かした産業・営農の強化
- ⑥太平洋側の災害リスクの高まりに伴う本社機能移転などへの積極的対応
- ・太平洋側の広域的災害リスク等を契機として高まる産業立地の優位性の活用
- ⑦優れた観光資源を活かした国内外誘致のための取り組み
- ・三大都市圏との地理的環境のより一層の活用
- ・ポテンシャルの高まる国際物流環境の充実

## 2-2. 北陸圏の将来像とその実現に向けた目標と戦略

ー日本海国土軸の中核圏域としての位置づけ  
将来像として

- ①暮らしやすさに磨きをかけ更に輝く新北陸
- ②三大都市圏に近接する特性を活かし、日本海、太平洋2面活用型国土形成を牽引する新北陸

### 新しい将来像実現に向けた目標（戦略）

目標・戦略：

- ①個性ある北陸圏の創生～更なる安全・安心、環境豊かな暮らしの充実、コンパクト+ネットワーク
- ②競争力のある産業の育成 ～北陸のものづくり産業や農林水産業の一層の活性化
- ③日本海側の中核圏域の形成 ～日本海沿岸地域の連携強化と太平洋側との連携強化
- ④対流・交流人口の創出 ～北陸の魅力を活かした国内外との対流・交流の創出

## 2-3. 広域連携プロジェクト

- ①豊かな暮らしを育む接続型都市圏形成プロジェクト
- ②いきいきふるさと・農山漁村活性化プロジェクト
- ③防災技術・地域コミュニティを活かした北陸防災力強化プロジェクト
- ④北陸の多彩な自然環境保全プロジェクト
- ⑤北陸発エネルギー技術、環境技術拠点形成プロジェクト
- ⑥東アジアに展開する日本海中核圏域形成プロジェクト
- ⑦食料供給力増強・食の北陸ブランド展開プロジェクト

- ⑧強靱な国土づくりに貢献する広域的な防災体制の構築プロジェクト
- ⑨高速交通基盤を活かした北陸観光交流圏形成プロジェクト

図5 接続型都市形成イメージ



出典：『新たな「北陸圏広域地方計画」【説明資料】』  
北陸圏広域地方計画推進室、平成28年3月

## 2-4. 隣接圏域との交流連携プロジェクト

- ①北陸圏・中部圏連携プロジェクト
- ②日本海沿岸地域の連携推進プロジェクト
- ③広域防災・観光に向けた隣接圏との連携プロジェクト

## 3. 道州制モデルとしての北陸州

北陸圏（富山県、石川県、福井県）は日本列島、日本海国土軸の中央に位置し、豊かな自然、共通の気候の中で安定した居住・文化を築いてきました。

古来より「越の国」として、明治以降は北陸として一体的に呼称されてきた定住圏域です。現在、人口約302万人、面積約12,600km<sup>2</sup>。GNP（国民総生産）は12兆円（1兆1000億ド

ル)と一定の規模を持ち、「住みよさ」—自然、教育、文化についての評価は全国の諸圏に比して抜群です。人口、面積、GDPは北欧諸国と比肩できます。

北陸圏の役割として、日本列島巨大災害、近未来に予想される首都直下型南海トラフ地震対応、一部首都機能移転の受け皿、東京など太平洋ベルトにある本社機能移転の受け皿となることがあります。

表1 北陸広域圏地方生活圏(州)

県名	人口(千人)	面積(km <sup>2</sup> )
富山県	1,070	4,252.16
石川県	1,156	4,196.82
福井県	790	4,189.38
北陸州	3,016	12,638.36

表2 北陸州と北欧3国の比較

国名等	人口(万人)	面積(km <sup>2</sup> )	GDP(ドル)
ノルウェー	511	385,199	4,562億(2008)
デンマーク	571	43,094	3,418億(2008)
フィンランド	533	338,400	2,739億(2008)
北陸州	302	12,600	1,1兆

現在国政レベルにおいて、憲法改正論議に合わせて21世紀日本の地方自治のあり方として、道州制が取り上げられる場面が多くなりつつあります。想定される道州制は、中央政府(外交、防衛、法、マクロ経済を受け持つ)に対し、州(道)は、教育、産業、雇用、医療、福祉、環境、防災、社会資本など、独自に立案決定をする権能を持ちます。首都機能の分散、移転というイメージもあります。

北陸圏を「北陸州」とすることの利点、必要性として北陸3県の急速な少子高齢化による人口減少の歯止め、広域地方自治体としての規模の維持、行政経費の効率的運用、地域

社会のインフラ維持などがあり、そして21世紀の日本に向き合う大きな構えが求められていると考えます。

図6 太平洋側と日本海側の連携強化による代替性の確保



出典:『新たな「北陸圏広域地方計画」【説明資料】』北陸圏広域地方計画推進室、平成28年3月

北陸州では全国一律の教育から、日本海を介して広く世界と向き合ってきた歴史を踏まえて、独自の教育の展開が期待されます。農業政策についても、都市農村広域土地利用計画を抜本的に検討し、その実施を全国に先駆けて行なってほしいものです。北陸州の州都については思考実験として、富山市、金沢市、福井市以外にいくつもの案が浮かびます。例えば能登半島もありではないか。

北陸広域地方計画における北陸圏のイメージとして、中部広域生活圏とのつながりの進展があり、その延長上に「北陸・中部州構想」もあり、これについては改めて検討してみたいと思います。

### 【参考文献】

1. 『福井圏域構成の歴史』 本多義明他編著
2. 『The Fukui Design Guideline』 発行・調査機関 福井大学大学院工学研究科建築建設工学専攻野嶋研究室、総括野嶋慎二(福井大学大学院工学研究科教授)
3. 『新たな「北陸圏広域地方計画(案)」【説明資料】』 北陸圏広域地方計画推進室、平成27年3月25日
4. 『新たな「北陸圏広域地方計画」【説明資料】』 北陸圏広域地方計画推進室、平成28年3月
5. 『特別史跡 一乗谷朝倉氏遺跡の案内』 福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館、2015
6. 『改訂新版 世界大百科事典』 平凡社 2007年9月

(2017. 10. 20)